

岡井町長説明	
日時・ 会場	平成29年7月8日（土曜日） 第1部 13時30分～15時00分 まほろばホール 小ホール 第2部 15時30分～17時00分 中央公民館 集会室
発言内容	<p>皆様こんにちは。土曜日のお忙しい時間帯に、こうしてたくさんの方にお集まりいただきまして、厚く御礼を申し上げます。これだけ町に関心を持っていただいている方がおいでになる、それほど幸せな事はないと思います。やはり、住民の皆様が主体となってまちづくりの基本を作っていかなければなりません。そのまちづくりの基本に沿って皆さんとともに歩んでいけるのかというのが我々に与えられた大きな責任だろうと思っております。</p> <p>まず河合のまちの歴史を皆さんに知っていただきたいと考えております。当然、まちが今できて出発したわけではありません。何十年とかかかって、河合の村から河合の町へと変遷してきた。その状況をやはり皆さんにも知っていただくということが、まず大事なのではないかと考えております。私は、平成3年に皆さんのご信任を得て町長にならせていただきました。正直申し上げまして、任期4年間ほとんど自分ではわからない状況の中で、いろいろと先輩の議員の皆さん、或いは職員の皆さんに教えていただきながら、取組みをさせていただきました。そして、4年間で最初に感じたことは、行政というのは、とにかく金が入ってくるのだなと。どこからこんなに金が入ってくるのかと、本当にそういう感覚の4年間で、私も小さな民間の企業におりましたから、商売の厳しさ、むずかしさ、本当にお金のない時の苦しさ、そういうことをよく知っておりました。しかし、行政は金はどこからか入ってくる。こんなにありがたいことはないなと感じたのが、1期目でした。</p> <p>その1期目で、最初に動き出したのが、第二小学校の大規模改修という問題でございました。これは、前任者から引き継いだ事業でございました。そしてそれをやっておりました時に、住民生活に耐えられない悪臭の問題が起きました。化成工場においてを何とかしろという話が出ました。県に掛け合いにも参りました。2期目に化成工場の解決を図らせていただきました。その当時、県から補助も受け解決には数億円かかったと思います。それが契機となり県や国との交流が始まりました。そのあと、問題になったのが佐味田の野焼きでした。煙がすごくてどうにもならないと。何とか解決してほしいということでございました。これにも解決には数億円かかったと思います。このように、住民生活に非常に支障をきたす、いろんな環境問題を何とかしようという思いで、当時出発させていただきました。</p> <p>私も最初は4期が限度だろうと。しかしその野焼きの問題を解決しました後、それにしても町長は今まで何もしてないじゃないかと、そんな話が、あちこちで聞かれるようになりました。そこで取り組んだのが、豆山の郷です。初めて、建物を作ったのではないかと思います。そして、それと同時期に中山田池周辺の桜のシーズンに、ただ花を見るだけじゃないかと。だから公園整備をやって</p>

ほしいと要望が非常に多くございましたので、公園整備をやらせていただきました。その当時からの経費で負債が増えていますが、その歴史的に起こった案件を何とか解決しなければいけなかったのです。土地開発公社の問題もそうです。それを解決しないで、そのまま放っておけば、30億近い金がずっと町独自の負債ということで残って行ってしまいます。この問題は、私が総務省や当時の建設省に何度となく陳情に行きまして、28億5千万円を借入れることができました。これらのいろいろな負債は、継続しておりますが、わが町は赤字決算を一回もしていない。人によっては赤字団体に転落するのではないかというふうに言われますけど、赤字団体には決して転落はしません。それは自信をもって皆さんに申し上げておきたいと思います。経常収支比率が今奈良県の町で河合町が一番悪いですが、あと2～3年すれば必ずその経常収支比率は下がります。この平成29年度が一番高いかもしれない。

その経常収支比率というのは平べったく言えば、お金が入ってくるのが少ないから、今使いたい金が使えないんだという状況なんです。ところが行政と一般会社の違いは、国の支援で、返済したお金がいくらか返ってくる起債をしながら、いろいろと事業ができる時にやるのだというのが一つの方法なんです。起債をして、国からの支援がつかなかったら100パーセント町の金を払っていかねばならないのです。でも、例えば今言っている認定こども園でもやはりその起債に見合って返ってくるものを選んでいきます。例えば、今、一応計算上12億ということになっていますが、町独自でお金を返すのは約6億円。半分の6億は国から入ってくるようになっていくんです。このことをしっかりと皆さんに知っていただくことが、本当に必要だったと思います。会社は利益を上げるためにあるが行政は利益を上げるための組織ではない。要は入ってくる金と出る金をだいたいトントンにするのが行政の仕事だと思います。でもその中には、長くお金を返していく、事業をするために長い間返していくということも必要です。それがなければ何にもできないのです。事業を起こす場合に、必ずそういうものを利用しながら、そして町独自で自分たちの力で払える分を払う。それをきちんとやっていけば決して将来の負担がどうするこうすると言われる心配はないんです。

では今なぜ、私が認定こども園の話をしているのかということ、27～8年前に小学校のPTA会長をしていた時のことです。当時、私は連合PTAの会長もさせていただいていました。その最後の年でしたけれども、我々、小中学校の問題はあるが、幼稚園の問題を解決したいというのが最初の思いでした。ご存じの方もいると思いますが、河合の幼稚園は本当に敷地が狭く、園庭も小さくて、子ども達が遊ぶ場所もない。だから私たちは、この園庭を何とかしてほしいと役場へ交渉に行きました。そうしたら、役場の返事は、近隣にうるさいし、これ以上広げたら具合が悪いというものでした。しかし、このまま幼稚園の問題を放置して良いのかという思いでした。子どもの教育、子どもを育てることが一番大事だということを皆さん知っているはずで、だから、町長に就任させていただいてからも、この問題については役場内で議論しました。その当時

から、将来もっと子ども達が伸び伸びと遊べるような、そして運動できるような環境を作っていきたいという思いを持ち続けておりました。保育所では園児が少なくなり保育所の集約化を始めました。本当はその時点で認定こども園の発想があればよかったんですけど、当時はまだ認定こども園というものは、そう認識されていなかったんです。その後、議会である議員さんから、認定こども園についての一般質問をいただきました。これで子どもの教育を考えていけばいいのではないかと思いました。平成17年には、幼稚園の先生方と一緒に話をする機会がございました。幼稚園の先生方の想いとして、「やっぱり子どもは環境のいいところで、ゆったりとしたところで教育をしたい」と。その時に総合スポーツ公園あたりで考えてもらえませんかというのが、先生方の要望でした。

それがずっと頭に入っていたので、認定こども園を考える時にその辺りでどうかかと。ここは馬見丘陵公園の中の一部ですから、こんな素晴らしい環境で子どもの教育ができると、最高だと思います。もちろん三小が平成32年度を目処に統廃合で使用しなくなるためその場所でも良いのではという検討もしましたが、それよりも、三小跡地をうまく使った方が町の利益になるのではないかということになりました。それで、認定こども園を、ここで取り組んでいこうと決断をしたわけでございます。

我々が今進めようとしていることに理解が得られるようにみんなで努力をしなければいけません。だから今職員も頑張っています。財政健全化の話ですけど、今年度4月から、職員には申し訳ないのですが給料カットをしております。私も含め、町の三役は15パーセントカット、職員もカットしています。年間約2700万円くらいの削減になる。本当にみんながそうやって努力して進めてくれているんです。私は職員の給料カットなんてしたくないとずっと言ってきたんです。でも今はみんな理解して、自分達もちょっとづつでもカットしようと言ってくれました。みんな生活が懸かっているんですね。そんな中で給料カットですよ。若い人なんか本当にキツイと思うんですよ。先ほど経常収支比率の話がでましたが、改善に向けて職員の給料カットに加え、議員さんも6月議会以降3.5パーセント報酬カットとしてご協力いただきました。これはありがたいなと思いました。また住民の皆様が利用し負担する分に関しては協議を重ねて、ソフトランディングしていくべきであると考えています。

今回の予算では認定こども園を作ることと財政健全化を行うことが重なってしまったと思います。つまり、認定こども園を作るために財政健全化をするのかという誤解を与えてしまいました。決してそういうことではないことを今説明しているのですが、誤解を与えたことについては深く反省をしています。でも、私は昔から言っていたんですけど、どういう形で住民の皆様を理解してもらうのか。これをしっかりとしていけないといけない。本当にパンクしてしまうようなことは決して避けなければいけない。うちだけではなく、国全体、県全体すべてが厳しい状態で、今できる時に何をするかの判断をしっかりとしていけないと、取り返しのつかない大変なことになってしまうと思います。

例えば、地方交付税はこれからもっと下がります。世界の情勢を見て、絶対戦争はしてはならないけれど、結局は防衛予算を増やすとかいろんな話が出てきます。国がそういう時に金を捻出するのに、地方交付税を削るという議論がでてくる。ですから今、国も余裕はないけれども、そういう議論がまだ出ていない中で国の補助金をつけてもらいやすいうちにそのお金を利用してやっていると、将来もっともっと厳しくなった時に、本当に何もできない状況になることを覚悟しないとイケない。それはしっかりと今見据えていくべき時ではないのかと、そう思っています。

一番先に認定こども園のことを言いましたけれど、やはり人口がたとえ増えなくても同じ規模を確保したい。減るのは困る。でも今若い人たちを、呼び寄せようとするれば、やっぱり子育て、教育、これが一番基本になる。いろんな子育てに関する先進的な取組みはこの近辺でも河合が一番最初にやっているのです。さらに、パナホームさんとニュータウンの問題、家の利活用の問題に対しても、前から取組みをしているのです。一番最初にやっているのに、なかなか人口が増えない。これはPRのやり方が下手ということもあると思います。それと時代的な背景もあると思います。ニュータウンに皆さんが住み始めた時は、河合町も右肩上がりの経済情勢でした。だから、少々高い家でも買うことができた。でも今の若い人たちは、子どもの教育へのお金がかかる等生活が厳しいので、まだ土地が高いというブランドが残っている西大和ニュータウンへの居住は簡単ではない。だから、旧村の方に特区等設けて、若い人たちが、安価で家を建てられるような土地を提供できるような施策を実施していきたいと考えています。

大体、仮に1軒家を建てて入ってきてくれますと、1家族3人として約30万円地方交付税が入ると見込んでいます。100軒建ったら、3000万円の地方交付税が増えるのです。一人一人に対して、いくら交付するというのは地方交付税の算定方法の中にあるのです。ですから、人を増やすことが、いかに必要なのか、しっかり我々も認識しながら、潤い、活気を取り戻さなければならないのです。転出抑制の取組みとして近鉄線の利便性向上もそうです。このような小さな町で、鉄道駅が3つもあるところはないのです。ですから近鉄の駅をもっと利用しやすいよう町も協力するから改良できないかという話もしているんです。だからそのあたりをこれからもう一度子どもにとって基本的な教育というものも踏まえながら、この町の在り方を高齢者の方に理解してもらいたいと思っています。子どもや孫のために、自分達が、どういうことを残してやればいいのかをこれからも考えていただいて、ご協力願えればと思っています。

収入増の取組みとしてはふるさと納税の推奨もしています。町外から通っている職員に河合町へふるさと納税をしてほしいとお願いしています。また、私は何年も西大和学園の卒業式等々に参加させてもらっているのですが、その時にずっとふるさと納税のお願いを申し上げています。親御さんにも、お子さんが生徒でいる間でも結構ですから、河合にふるさと納税してもらえませんかとも

お願いしています。

これまでお話をさせていただいてもご不満な点は、沢山あると思います。当然、100パーセントすべてが正しいわけではございません。でも変に誤解しないように、発言をしっかりと聞いて、理解をしていただきたいと思います。そのために、タウンミーティングをやらせていただいています。これまで私も住民の皆様との対話に少し後へ退いていたのかもしれませんが。これからはしっかりと時間を作って、直接住民の皆様の説明をする機会を設けていきたいと思っています。自分が町長として務めさせていただいて、精いっぱい最後まで尽くしていきたい。それほど私は河合の町が好きなんです。河合の町を今まで以上にもっともっと素晴らしい町にしたい。前を向いて進めていきたい。ストップをかけられるのではなく前を向くためにどうすべきか、という話し合いをしていきたい。考え方の相違があるかもしれないですけど、足の引っ張り合いの行政ではまちづくりはうまくいかないと思います。これから、皆さん方とこうした話し合いを最低年に2回ぐらいは持ちたいと思いますので、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りたいと思います。

質問で私がわかることは私が答えさせていただきますが、細かな数字につきましては、担当部課長に答えさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました